

広土会新聞

第9号

2004.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

2004年を迎えて



広土会会長
島 重章

昨年は広島工業大学広土会が創立35周年を迎え、広島支部と広島西支部の幹事を中心として祝賀事業を行いました所、約400名の会員にお集まりいただき、盛大に35周年を祝うことができましたことはご同慶の至りであります。また、このことが広土会創立40周年へ展開していくことを願っています。

さて昨今の世相は、バリアフリー化が叫ばれ、弱者にやさしい街づくりが行なわれている中で、未成年の社会問題化が多面で発生して日常生活に大きな衝撃を与えております。世の中の不安定さがそのまま脆弱な面に現れたと考えられ、社会資本整備と私たちの生活がソフト、ハードの両面でますます生かされていかなければならないと考えられます。

昨年的一年間に建設系の雑誌に取り上げられた記事内容を見ると、そのほとんどが最近の建設事情を明らかに示していると思われます。私の研究室の雑誌のなかから土木学会誌を見ると、平成15年の特集記事は、「公共事業と財政のバランス」「持続可能な環境型エネルギーの再生に向けて」「自然再生と環の国」「本格化する土木分野のグローバルスタンダード化」「福祉のまちづくりと土木」「地震防災と社会基盤整備」等等、最近のキーワードが語りかける内

容は、既に提唱されてきた公共事業を、今後土木分野の競争力やグローバル化のなかでどのように取り組み、展開するかを示唆していると考えられます。

高度成長の終了した世の中が、大きくうねりながら流れている、まさしくそんな感覚を覚えながら、私自身が大学の中にいて感じているその一つは、18才人口が2001年に151万人であったのが、2004年には141万人、2007年には130万人、2009年には120万人になることである。また、大学へ入学してくる学生たちの置かれた制度も変わってきた。2002年に学校完全週5日制、2003年に高校新・新課程実施、そして2006年に大学新・新課程入試と大学新センター試験の実施など、これまでとは様変わりしているのです。このような中で、入学受験生をいかに確保するのか、新入学生をいかに指導するのかなど、卒業生の皆さんが体験された大学とは表面的には変わらずとも、内面的には大きく変わってきております。

以上のように、建設業界も大学も大変な時代に突入しております。これまでと同様の毎日を送ることはできないのが実情です。他の産業構造のように努力してさらに良いものを創り出していくを、建設業界にも大学機関にも求められていると考えられるからです。進むべき方向性を見失うことなく、進展する努力が必要になると考えられます。最近の本学教育目標が中期基本計画として各種委員会の中で検討されておりますが、そのなかで共通する部分は、人間性豊かな技術者の育成を行うことを主軸に、そのことをいかに具現化するかが各学科に求められてい

るのであります。

建設業界におきましては、国土交通省が示した技術基本計画の中に、国民の暮らしに関わる五つの目標として、①安全；安全で不安のない暮らしの実現、②環境；良好な環境を取り戻し、美しく持続可能な国土の形成、③コスト；快適で生活コストの安い暮らしの実現、④国際競争力；国際競争力を高め、活力ある社会の実現、⑤社会参加；誰もが社会の一員であることを実感できる社会の実現を掲げております。

公共事業の減少とともに、人々の生活に密着した事業へと公共事業の軸足は移り変化しております。その中で技術革新を目指すための方向性は、土木技術の技術開発のキーワードとして、①維持管理；インフラの長寿命化をはかるための維持管理、②大深度地下開発；空間の有効活用を図る大深度地下開発、③自然再生；自然環境との共生を目指す自然再生、④災害復旧；施工の自動化を目指す災害復旧、⑤バリアフリー化；高齢化社会への配慮を行なうバリアフリー化、⑥データベース構築；情報の有効活用のためのデータベース構築が掲げられています。

広土会会員は、新たな技術開発に取り組むために、技術力の高度化を目指すことが必要になります。そのためにも広土会の存在意義を認識していただき、「広土会技術士会の構築」、「技術士補講座の充実」を重点目標とする計画の実現を図り、大学が広土会会員諸氏の生涯教育の場になることを具現化の一つに掲げ、活力のある広島工業大学広土会へ向かって進んでいきたいと考えています。

最後になりますが、会員の皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念し、巻頭のご挨拶と致します。今年もどうぞよろしくお願い致します。

5%のふくらみ



広島工業大学学長
茂里一紘

同窓会の役割

私学にとって同窓会の意義は強調して強調しすぎることはない。同窓会に対する私の考えは、広島工大同窓会会報37号「大学と同窓会」に書かせて戴いたとおりである。

同窓会の役割のひとつに、社会における活躍の後輩に伝えてもらうことによってそれを技術者教育の現場である大学の教育に活かすことがある。同窓会は技術者の現場と学業の現場を強烈なメッセージで結ぶ役割を果たす。もちろん大学は社会にあって活躍している卒業生に母校を誇りに思ってもらえるような大学になるべく努力しなければならない。

先般、「広工大 Autumn」で、卒業生の和田賢氏（1999年大学院土木工学専攻修了）の「広島工業大学の『POWER』」を読んで、その考えが間違いでないことを再度確信することができた。「…母校を築立っていく後輩諸君に伝えたいことがあります。『広島工業大学の繋がり』を是非大切にしてください」大学時代に出会った友人、先輩、後輩などは自分の大切な財産になります。将来、必ずどこかで広島工業大学の卒業生に出会う、あるいは再会すると思います。その時、実感するでしょう。広島工業大学の『POWER』を」と書かれていた。まさに同窓会のあるべき姿である。新年の教授会でこの文章を紹介し、このような卒業生がいる限り、本体はしっかりしなければならないと話した。

広土会の活動

広土会新聞第8号を拝見した。同窓会としての広土会の活動に改めて心強く思った（ただ、活字の大きさからこの新聞の主な読者は誰であろうかと思ったが）。高松先生と石井先生の「就職状況」や3名の

学生の「就職活動」は、採用や職場教育の現場で働く先輩には、昨今の教育現場の様子を知る上で有益であろう。

各支部の活動も有益な活動をしている。関西支部佐賀氏の新しく始めた事業に関する報告は、「広工大の協力がいかに大切か体験しました」で結ばれている。島根県支部では、工事現場視察と中国山峡ダムの視察旅行を行っている。それらも同窓生のネットワークで実現している。特に現役の先生方が卒業生に対して技術士講習会を開催していることは価値ある活動である。島根県支部では宮崎先生による技術士の講習会を開催している。初めての試みであったが大変有意義な研修会であったと報告されている。また、大学で開催した技術士講習会に出席した後藤敏紀氏は、「女房の手作りの弁当を持って（技術士）試験に臨んだ」とのこと。（結果はどうであったろうか）。いずれも卒業生と大学が連携した同窓会活動である。

そうは言うものの、懇親会は同窓会の第一の目的である。前述の企画も懇親の場から出ているとのことである。しかし、昨今はこの同窓会でも若い世代の参加が少ないという問題がある。若い人達は自分のことで精一杯である。お金まで出してなぜ見知らぬ先輩と付きあう懇親会に出なければならないのかと思ってしまう。和田氏のような理解を持つためには若干の年月が必要である。ある支部の同窓会に2名の新卒者が出席していた。聞くところによると、勤務先の上司である先輩から、会費を持つから出るように言われたという。「出席してよかったと思います」と挨拶をしていた。ありがたいことである。

これからの土木工学教育

ところで、土木工学のことを英語で Civil Engineering ということをご承知のとおりである。工学（エンジニアリング）に軍事的な響きがあったためあえて民事（civil）という形容詞が加わったということである。したがってもと「Civil Engineering」は「工学一般」を意味した。しかし、その後、機械

工学や電気工学が独立してぬけたため、「Civil Engineering」は後に残った土木工学分野だけを意味することになった。

時はめぐって、今、土木工学を取り巻く環境は厳しい。改めて、「Civil Engineering」の意味するところを考えるとその意味は深い。「Civil Engineering」、逆に日本語に訳せば「民生工学」とも「生活市民工学」とでもなろうか。私はこの名称の意味する工学教育こそこれからの土木工学教育に求められていることではないかと思っている。

昨年9月、本学教員の教育資質向上のための研修会（Faculty Development、略してFDと言う）を開催し、本学のこれからの教育目標について討議した。3名のOBに出席してもらい提言をしてもらった。今、そのときの議論をもとに18年度導入に向けてこれからの教育目標とそれを実現するための内容・方法について学内で検討しているところである。OBの視点は、本学への愛着があると同時に社会の視点を併せ持つ。私は、大学の教育改革には社会の視点が必要であると考えているが、同窓会にもっとその貢献をしていただけないかと思っている。

5%をふくらませよう

大学に在籍する期間は（通常）4年である。平均寿命80歳を越えた今日、それは人生のたった5%に過ぎない。しかし、どなたにとってもそうであろうが、そのたった5%は人生でなんと大きな意味を持つことであろう。同窓会が機能することによって5%は卒業生にとっても大学にとっても一層大きく膨らむ。大学は、その5%のかかわりを口実に卒業生の活躍を武器に教育にあたる。そのような状況が実現すると、在学の5%は技術者（ないしは広く社会人）としての生涯にわたる出会いの機会を提供するための期間ということにもなる。そうならば最高である。

これは、広島工大同窓会会報37号にも書かせてもらったことであるが、卒業式に、卒業25年後、50年後のOBを招きたいと考えているが、無理であろうか。同窓会からの反応が今ひとつで思案している。

5%を限りなくふくらませたい。

新任の先生より一言



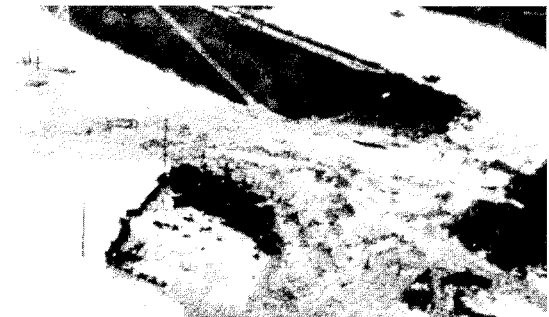
新任の挨拶

建設工学科・教授
宇野尚雄

平成15年4月に広工大へ着任しました。広島は初めてで、郷里の倉敷を出発して京大、岐阜大退官を経て来ました。桜井前学長からのお誘いでした。

私の専門分野は地盤工学ですが、土質力学のなかの透水、地下水を主にして「土と水」の境界領域です。昭和51年の長良川堤防決壊（写真参照）以後は「河川堤防」を対象にしました。河川堤防には、種々の土質力学の問題が関係することが余り知られていません。今年は二つの技術ガイドラインが施行され、堤防モニタリング業務が始まる見込みです。

広工大の建設工学科は皆さん礼儀正しく、挨拶を交わされる気持ちの良い雰囲気があり、居心地は良い。只、今年から学内では限定された指定箇所以外の禁煙が施行され、研究室での喫煙もできなくなるのが居づらい環境となりました。学生諸君は良く質問にも来られ、勉強熱心なのに感じています。効果の上がる学習法の伝授を心がけるつもりです。「できるだけ少ない基礎知識を仕入れて応用ができる」がモットーです。



S51.9 長良川堤防決壊の瞬間

広島地方の地盤工学的課題は何かという疑問を持って網干寿久・広大名誉教授を訪ねたら、まさしく斜面問題が残っているとの話でした。小生は、浸水による不飽和土の強度低下の研究を続けていたので、これらに関心のある方は研究室に一報くださるか、またはメールで次のアドレスへご意見を下さい。

unot@cc.it-hiroshima.ac.jp です。

広工大では教官は一人一人が全てを処理する体制のために、組織的研究体制が取りにくそうですね。これからは大学の研究は役立つ課題解決に向けた、実務技術者と連携した開発研究を模索する必要がある。先輩諸氏が抱えている課題解決に向けて応援できる機会があると都合ではないかと考えています。「必要は発明の母」です。現場が抱えているニーズを大学にお知らせ下さると幸いです。



「広土会の会員の皆様へ」

建設工学科・助教授
玉井宏章

私は、2003年4月1日、建設工学科建築工学コースの教員として赴任いたしました、玉井宏章（たまい ひろゆき）と申します。本学では、測量学、建設材料学、建設施工システム、計測の科学、材料の科学等の講義を担当いたします。

早いもので、赴任いたしまして9ヶ月があっという間に過ぎました。この期間内で私の知りえた、現在の学園の近況をご紹介します。コースは、社会建設工学コースと建築工学コースがあり、学科の定員は、180名、コースの定員配分は、約半分となっております。上記の講義をやりはじめた実感は、すべての講義とも約100名が受講するので、その人数の多さに圧倒されるということです。

人数が多く、すべての学生に目が行き届かないことを解消するため、レポート、プリントを配布しておりますが、

この採点、準備印刷の作業が大変でありました。前職は、広島大学工学部第4類建築学課程であり、そこでの定員は50名と本学の約半分でしたので、慣れていないこともそう感じさせた理由です。

この人数の多さでは、授業運営が難しいことが危惧されますが、本学での授業の雰囲気は、それに反して静かで熱心であり、学生の学年が上がるにつれ、その傾向が強くなります。

赴任して間もない時期に、廊下で出会う面識のまったくない大学院生、3・4年生諸君が、挨拶を積極的に行ってくれるので非常におどろきました。また、3年生のクラス委員という、そのクラスを取りまとめる委員を選出する際も、積極的に立候補する学生がおりました。現在、無気力、無関心、非礼な大学生が増えていると聞きますが、本学では、教員の指導等の成果があがってきており、大丈夫のようです。前述の授業態度もその表れであると考えています。

文献ゼミという講義で、卒論着手前に研究室配属を行います。本年度は、私の研究室には、15名の3年生が配属されました。写真は、文献ゼミでの忘年会の写真です。私の専門分野は、建築の制振構造、鋼構造、スマート構造、有限要素構造解析で、研究手法としては、構造実験とコンピュータ解析を併用しております。文献ゼミの学生には、4つのグループに分かれて私の論文をもとにその内容の発表会を相互にやりあい、理解度を深めました。

各学生とも勉強は苦手ですが、建設に携わって行くぞという「やる気」は誰にも負けないようになって欲しいと考えています。

さて、年は明けましたが、建設業界は景気の回復基調がいまだみえないようです。その中で、建設業界も激しい競争時代に入ります。本学科も、日本技術者教育認定制度（JABEE）で、教育内容のCHECKを受けて、技術士補という資格を無条件にもらえる審査を受けるべく、準備を開始します。この受審作業では、卒業生の皆様にアンケート等様々な形のご協力が必要になります。面倒な作業ではありますが、学生が卒業後に有利となることは間違いありません。

こうした厳しい社会状況ではありますが、教育・研究ともに学科の構成員として尽力したいと考えております。会員の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。



文献ゼミでの忘年会

就職報告

2003年度の就職状況 （建築工学コース）

建設工学科・就職委員
宮崎祐助教授

今だかつてないと言われる長い期間続いた不況も、やっと底離れたと報じられております。この種の報告は過去にもされましたが、今度こそそれが真実であって欲しいと願う次第です。しかし、建設業は、他産業の景気回復とは1～2年のタイムラグがあり、就職戦線も今しばらくは厳しい環境にあるものと覚悟しております。

この厳しい条件下で学生諸君は、今年もよく頑張ってくれました。建築コースに在籍している4年生は、78名（内女子8名）でして、進学・就職の進路希望は次のような内訳となっております。

大学院進学：10名、公務員希望：2名、企業への就職

希望：63名、休学などの就職幹施不要者：3名

企業への就職を希望する63名の8割以上は10月までに内定するという好結果で、この原稿を書いている1月中旬には63名全員の就職が決まりました。63名が内定している企業の職種は以下の通りです。

総合建設業：38名、住宅関係：11名、設計事務所：4名
建築関係その他：6名、非建築：4名

就職担当者として、今は、この63名の諸君が短期間で入社することなく、それぞれの会社に着任し、建築技術者として活躍してくれることを願うばかりです。

本学への入学を希望する高校生には、「工大は就職の内定率が高い」ことを志望理由とする者が少なくありません。卒業生の皆様が築いてくれたこのかけがえのない評価にあぐらをかくことなく、また、かげりをきたすことのないよう学科として頑張っていく所存です。卒業生の皆々様には、今後とも後輩への絶大なるご支援を賜わりたくお願いする次第であります。

本年度の就職状況について （社会建設工学コース）

建設工学科・就職委員
中山隆弘教授 大東延幸講師

平成16年の新春を迎えた今、多少の安堵感を持ってこの拙文をしたためている。秋口まで内定率が思うようには伸びず、正直なところ、今年度は卒業までに就職先が決まらない学生が多数生じるのではないかと、当時はかなりの危機感を抱かざるを得なかった。

しかし、何人かの先生の力強いご尽力と学生自身の粘り強い努力—最近の傾向として、多数の企業が、インターネット等を利用した自由応募方式や、推薦書を必要としない選抜方式を採用するようになってい—によって、建設関係の会社への就職を希望しているもの—学部生に限れば、今年度は大学院への進学希望者が12名、公務員（土木職）希望が6名、建設関係の会社への就職希望者が71名、建設関係以外の進路を希望する者が19名で、内定先がまだ決まっていなかった学生は、学部生と大学院生を含めて若干名になった。本紙面を借りて、ご尽力を賜った方々に心より御礼を申し上げます。

ところで、入社の難易度の高い会社から比較的早い時期に内定の通知を貰った学生諸君をみてみると、当然と言えば当然であるが、いくつかの共通点があるように思われる。

具体的には、まず、相当の基礎学力と資質を有していること、次に、就社ではなく、就職に対して明確な目標を持っていること、さらには、心身が健康であること、明るく礼儀正しいこと、素直さを有していることなどであろうか。

逆に、厳しい時代の特徴かもしれないが、学業成績が少々優れていても、コミュニケーション能力に劣る学生は、何度か悔しい思いをしているようである。ペーパーテストでいい成績を取ることと仕事ができることは別であるということであろう。一朝一夕にコミュニケーション能力を上げるのは難しいが、現3年生や大学院の現1年生には、このことを肝に銘じて努力をして欲しいと願っている。

さて、主な就職先であるが、競争の厳しい時代を反映して、今春から土木職として国、都道府県、市の公務員職に就ける学生は残念ながらいらない。また、公共事業の大幅な縮減によって必然的に企業の採用枠が減り、そのために、いわゆる大手建設会社や大手建設コンサルタントへの就職も叶わなかった。

しかし、そのような状況下でも多くの学生諸君が各自の適性に応じて選んだ会社の入社試験に果敢にチャレンジし、それぞれ内定を得てくれたことは嬉しい限りである。

紙面の関係でそれらの会社をすべて掲げることではできないが、一部を以下に掲げて本稿を閉じたい。

大鉄工業、日本ピーエス、大豊建設、広成建設、神崎組、日本鋪道、前田道路、フジタ道路、間瀬コンサルタント、四国建設コンサルタント、リョーセンエンジニアリング、ブリッジエンジニアリング、他

在学生だより

広島工業大学 工学部 建設工学科
平成15年度オリエンテーションセミナー
平成15年4月18日金

人間と自然を
考える...

株式会社 荒谷建設コンサルタント
代表取締役 荒谷 壽一
卒業生 37名
〒730-0831 広島市中区江波西1丁目25番5号
TEL(082)292-5481 FAX(082)294-3575

技術と信頼で
新しい未来を創造する

代表取締役社長 三浦 勝行 (J: 3期)
田岡康博 (土: 3期) 平加照彦 (土: 10期)
小川光司 (土: 11期) 児島一之 (土: 14期)
渡辺 茂 (建: 2期) 黒岩幸司 (建: 35期)

本社 〒731-0154 広島市安佐南区上安1-12-27
TEL (082) 872-3422 (代)
FAX (082) 872-2460

建設コンサルタン 建10-第4480号
測量業登録 第(8)5175号
補償コンサルタン 補11-第937号
地質調査業登録 質10-第1721号

銭高組

広島市宇品港 ―― 南十字星に乗船 ――
～音頭瀬戸～大島大島～柳井市(白壁の町並み)
～広島市宇品港



客船「南十字星」へ乗船



柳井市「白壁の町並み」見学

「工大祭建設工学科展レポート」

社会建設工学コース

小櫻 憂子（3年）

広島会に所属して初めて、工大祭というものに参加した。11月1日～11月3日まで行われた工大祭は以前よりも身近に感じられるものとなった。

広島会で出展したのは、パソコンでCADソフトを使用し、多々羅大橋を1/5000スケールで3D化したものであった。

私たちは、それを形にするため、10月22日、尾道の本州四国連絡橋公団まで、多々羅大橋の図面を得るためと、その時の工事についてのお話を聞きに行った。その時現地の人から、現物そっくりの模型や、施工当時のお話、現在の状況など詳しく教えていただいた。

私たちは、初め模型を作ろうとしていたが、現地にある多々羅大橋の模型はとても素晴らしく。このように同じものを作る事はできないし、生半可なものを作って展示する事は、とてもできないと思った。そして、現場の人や、その他先生方の考えで、CADによる多々羅大橋の3D化が考案された。

そして、本格的に設計図から、図面を起こした事も無い。私たちは先生からCADの基礎的な本を借り、3D作りをはじめた。

いざCADで作り出すとなると、設計図からの読み取りが意外に難しく、何度も読み違いをしてしまった。そして、3Dの立体に起こす事は、大学の講義でも学んでない事で、初めての挑戦、何もわからないことばかりでした。その経験が皆無だった事からいし、本当に作り上げることができるのか、とても不安でした。

多々羅大橋の床板や支柱は、CADではひと繋ぎの面で、書いていなければならなかった。しかし、その形の複雑さゆえ、何度もそのためにやり直しをする事となり、そのたびため息をついたものである。

橋のケーブルのところは、支柱から床板にどのようにつながくとも悩み、何度も何度も先生方に質問をし、試行錯誤を重ねた。

いざ3次元にするとすると、自分が描き込んでいた次元が、思っていたところとは違う次元にあったり、何度も夜遅くまで残ってパソコンをついていた。

そして、工大祭展示前日10月31日には、パソコン室がし

まった後も先生の研究室を特別に貸してもらい、皆でパソコンの前に座り、おかしなところは無いが、点検と修正を行った。その作業は朝まで続き、多々羅大橋を完成させた。そんな私たちの力作は、展示会場の中央に置かれ、計算機センターから借りてきた大画面に映し出された。先生方も満足な様子で、そしてそれは見る人を、もともと業者の人が描いたフロッピーのように思われたほどであった。大画面の黒地に、白く精巧に描かれた多々羅大橋が回る様は、優美で見る人を釘づけにさせた。展示は2日間行われ、250人以上の人に多々羅大橋を見ていただき、今年の展示は大成功であった。

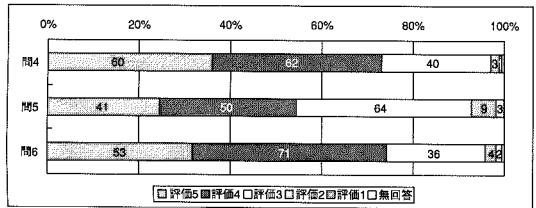
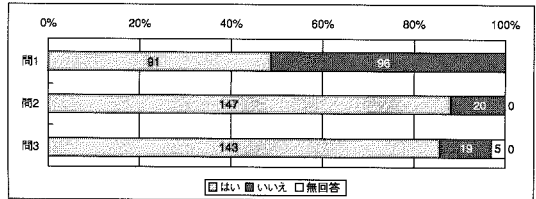
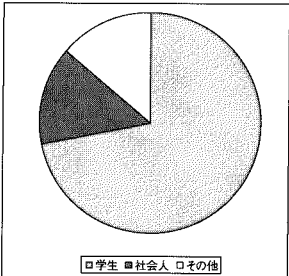
私は今回、みんなで一つのものを作り上げる事や、困難に協力して助け合う事で得られた達成感や満足感は一生涯忘れられないだろう。

この展示がこれほど素晴らしい出来なのは、関わったメンバーの皆やその他、多くの先生方や本四国公団などにご助力いただいたお蔭である。誠にありがとうございました。この紙面に置きまして、また厚く御礼申し上げます。

2003年大学祭学科学展アンケート集計結果

	学生	社会人	その他	合計
11月1日	66	10	11	87
11月2日	54	14	12	80
合計	120	24	23	167

	男	女	合計
11月1日	53	34	87
11月2日	49	31	80
合計	102	65	167



【問1】 大祭は初めてですか? はい 91 いいえ 96 無回答 0
【問2】 建設工学科の学科展は初めてですか? はい 147 いいえ 20 無回答 0
【問3】 来年も学科展に来てみようと思いますか? はい 143 いいえ 19 無回答 5
【問4】 展示会はおもしろかったですか? ⑤60 ④62 ③40 ②3 ①1 無回答1
【問5】 建設工学科についてよくわかりましたか? ④41 ③50 ②64 ①9 ②3 無回答0
【問6】 展示内容はわかりやすかったですか? ⑤53 ④71 ③66 ②4 ①2 無回答1



「学科展を終えて」

建設工学科

服部 絵美（1年）

11月1日、工大祭初日。学科展に出展する模型を前にして、私は高ぶる鼓動を抑えながら最初のお客さんが来るのを今か今かと待っていました。

潮ること約3ヶ月前のことです。入学してから高校生活との違いに戸惑いを覚えるとともに、サークルにも所属せず何の活動にも携わっていない私は大学生活に少し物足り無さを感じていました。「何かしたい」そんな矢先に、建築工学コースの2・3年生の先輩方で今年から工大祭の学科展に出す模型作りのグループを結成するという話を先生から伺いました。私は以前から建築模型に興味を持っていたのですぐに参加を希望しました。1年生と2・3年生の建築工学コース計30人で構成されたこのグループは「建築屋たち」と名付けられ、これから工大祭に向けて活動していくこととなります。

建築屋たちではまず始めに「現在の工大と未来の工大模型を作る」ことを話し合いで決めました。現在の工大模型を製作する現状班は敷地の測量をし、1/500の模型を完成させました。そして未来の工大について考える計画班は決定したコンセプトに沿って大きな模造紙にそれぞれ思い描く

建物の配置やイメージを図やパース、1/500の模型によって表現しました。平日は授業が終わり次第、土日朝から晩まで作業に取りかかっていたので体力的、精神的にもかなり大変でしたがみんなで団結して一つのことを成し遂げる楽しさは、私にとって何ものにも変えがたい貴重なものでした。そして迎えた学科展当日。予想以上の大勢のお客さんにお越し頂き、また関心を示して下さったことに私はとても感激しました。その時初めて達成感に満たされて、心からやってよかったと思いました。

この活動を通して、私は本当に数えきれない程多くのことを学ぶことが出来ました。何もかも全てが初めてで分からないことだらけの私たち1年生を先輩方はいつも優しく接して下さいました。色々なことを教わる中で私が感じたのは、分からないことは決して恥ずかしいことではなく自分が飛躍するための最大のチャンスだということです。疑問が解決した時の充実感、学ぶ喜び、普段の生活で忘れかけていたこれらの気持ちを建築屋たちは思い出させてくれた気がします。加えて、自分の意見を主張する大切さや相手の意見を受け入れ納得する難しさを改めて痛感しました。人に物事を伝えるのは簡単なようで実は非常に大変なことです。これは私のこれらの課題のひとつとなりました。

建築屋たちの仲間、先輩方、忙しい中足を運んで下さった4年生・大学院の先輩方、そして何よりもこの活動を温かく見守り、支えて下さった先生方・広島会の皆様、最後に毎日活動で帰宅するのが遅く心配をかけてしまった両親へ感謝の気持ちを込めてお礼を言います。本当にありがとうございました。来年も是非挑戦していきたいと思いますので今後ともどうぞよろしくお願い致します。



「インターンシップを終えて」

社会建設工学コース

塚田 秀太郎（3年）

3年生の夏、私は将来のことについて何かやらなければと考えていました。しかし、特に行動に移すことが出来ていませんでした。そんな時、大学の掲示板でこのインターンシップのを知り、長期休暇を有効活用し、普段では経験出来ないことに挑戦出来る良い機会だと思い参加することにしました。

研修は、国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所へ行きました。研修内容は、三次河川国道事務所が造ったワンドを調査するものでした。ワンドとは一部が本川とながった河川沿いの水溜りのことです。河川敷の環境を変化させ生物種の多様な生息・生育環境を確保する、つまり生態系保全機能を担っています。その調査結果をPower Pointでまとめ、指導して下さった方々の前で発表を行いました。

具体的にワンドの調査について説明すると、毎日2回、ワンドの水温の調査、水採取pH・DO・CODを計測し、それらを用いてデータ処理を行いました。一見単純な作業のようですが、その単純な作業から、ワンドの小さな変化（例、水質悪化）を見つけることが出来ました。作業を繰り返していくことの大切さを改めて実感しました。

また、現場見学へも連れて行って頂きました。中でも印象に残っているのは次の2つです。1つ目は、刈草を堆肥へと再利用している現場です。刈草もただ捨てるのではなく、利用法を考えリサイクルに取り組みされていました。2つ目は、灰塚ダムです。夏なので打設を見ることはできなかったのですが、建設中の現場を間近に見ることが出来ました。現場見学は、ワンドの調査とはまた異なり、一段と視野が広がったように思います。

参加することが決まってからは、うまくやっていけるかどうか不安ばかりが募っていました。研修中に学んだことを全部自分の力にしているという心構えで取り組んでいました。毎日がとても充実していました。

ただ残念だったのは、研修期間が10日間と短かったことです。もっと多くのことを指導して頂きたかったし、ワンドをより深く様々な角度から調査を行いたかったです。

この研修を終えた今は充実感に満たされています。参加する前の自分と比べてみると、様々な面で成長出来たと思います。そして、将来について漠然とはなく、具体的に考える良い機会になりました。御指導して下さった方々に改めて感謝したいと思います。インターンシップで得た知識、経験をこれからの大学での学習、そして就職活動に大いに活かしていきたいです。

プレストレスト・コンクリート構造物、設計、施工

極東工業株式会社

代表取締役社長 藤田 公康

本社 広島市東区光町2丁目6番31号

支店 東京・大阪・広島・福岡

営業所 千葉・横浜・名古屋・神戸・四国・岡山・松江・鳥取
山口・北九州・大分・熊本・宮崎・長崎・鹿児島・沖縄

工場 江津・大分・高宮

ISO 9001 認証取得

「街」づくり、「夢」づくり

株式会社 國原組

代表取締役 社長 國原定明

〒729-6215 三次市江田川之内町501番地の2
TEL:0824-66-1220 FAX:66-1219

―― 21世紀をみつめて ――

心の映像をカタチにします 建設クリエイター

総合建設業

株式会社 栗本

〒733-0035 広島市西区南観音7丁目14-20

TEL(082)293-8500(代)



“くらしき作陽大学” 見学会について

建築工学コース

多田修一郎（3年）

私たち3年生は今年は就職前のとても大事な時期でした。しかし、夏休みを目前にして、何か建築工学コースとして大きなプロジェクトをやってみないかという先生方の呼びかけがあったのです。もちろん、すべてがゼロからのスタートだったのですが、3年生を中心に1・2年生と一緒に何か一つの物を作ろうじゃないかと呼びかけました。

そこで、集まったメンバーにより結成されたのが、“建築屋たち”というグループです。まず、集まったはいいけれども、やる事を決めていなかったため、話し合いに話し合いを重ねました。最終的に項目が3つに絞られたのです。1つは、楽々園の再生。2つ目は、キャンパス計画、3つ目は水とり浜公園の再生でした。そして、多数決を行った結果、建築屋たちという一つのグループとして、工大祭の展示会までに「キャンパス計画」をしようということになったのです。

夏休みから大学祭の学科店まで様々な出来事があったのですが、私はその中の一部である「くらしき作陽大学の見学会」について感想を述べたいと思います。

当日は10月の下旬で、秋の紅葉がちらちらと見始めており天候も景色も良好でした。くらしき作陽大学が広島工業大学と比べて何が違ったのか、どんな魅力があったのかを述べたいと思います。

まず、キャンパス全体は柔らかなフォルムと色調で統一されており、特に開放的なカフェテラス方式の食堂と一体的に造られた中庭空間は、流れる地の広場からなり、豊かなキャンパスライフを演出する空間になっていました。作陽学園倉敷キャンパスは、実は、津山市からの移転に伴い倉敷市玉島長尾に新設されたもので、まだ建物が真新しく設備も最新式でした。音大音学部と短大音楽科、食文化学部で構成されており、広島工業大学とは全く違う建築概要であったといえます。くらしき作陽大学・作陽短期大学を設計されたのは「吉村順三」さんで、皇居新宮殿や国際文化会館などを手掛けられた方です。全体的に講堂・大講義室等、建物内部の仕上げには木材が多用され、またレッスン室、アンサンブル室等、それぞれの使用目的に合わせた音響設計がなされていました。そして、一番我々の大学と違う点は建物の外観と配置計画です。外観は、和風を思わせるような屋根・色調になっており、新1号館のような高層の建物はなく、すべてが低層で統一されていたのです。何か、広島工業大学とは違い、建物の圧迫感もなく、落ち着ける空間が多いことが印象的でした。中庭に立った際の各棟の配置のバランスや軒先までの細かなデザインの心配りも素晴らしいです。敷地がJR新倉敷駅の北側に広がる緩やかな丘陵地帯の小高い丘の上にあるため、風通しもよく、採光も申し分ない条件に建物は建っていました。広島工業大学のように傾斜地に建っていないため、キャンパス内での移動は実にスムーズで、判りやすく、居心地が良かったのです。

私たちが広島工業大学の傾斜地を活かしたキャンパス計画を学生なりに行いましたが、やはり平地とは違った難しさがあり苦戦しました。くらしき作陽大学を見学したことで、コモンスペースの必要性、地域住民との繋がりを持つことの大切さを学べたと思います。そして、何よりも空調設備が地下の1角にすべて収容されていたことに驚きました。実際に、自分の通う大学がどう整備されていて、設備はどのようにまとめられているのか調べていなかったのが、新たな課題の発見にもなりました。つまり、他大学と比べる前に、まだ自分の大学のことを知り尽くしていなかったということです。ですから、見学会を行ったことでメンバーそれぞれが良い刺激を受けましたし、来年への取り組みも多々見えてきたと思います。

当日、親切にキャンパス内を案内してくださった作陽大学の事務員の皆様に感謝し、見学の際にパイプオルガンの演奏をしてくださった学部長「馬淵久夫氏」にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。見学会に参加して本当に良かったと思っています。



海外語学研修

建築工学コース

岩野 力（3年）

私は、幼い頃から将来海外で仕事をしたいという思いがありました。そこで、まずは語学だと思い、本学の米国のデラウェア大学語学研修に参加することを決意しました。

まずは説明会に参加し、様々な出国準備を整えました。しかし、出国予定日1週間前にイラク情勢を懸念して本学の語学研修は中止という形になりました。私はすでにモチベーションが高くなっていましたし、1か月間予定がなくなってしまったということもあり、どうしても行きたいという思いで、個人で民間の語学研修施設に問い合わせ、単身オーストラリアのシドニーに行くことにしました。

いよいよ出国です。最初、私は皆より多少英語はしゃべれる方だと思っていました。しかし、実際海外で一人であるさすがに心細くなり、人と会話がすることが恐いと思ってしまいました。そこで、私が心がけたことは笑顔でした。勇気を出して、カタコトの英語ですが、笑顔で人と接してみると、相手もゆっくりわかりやすい文法や単語で接してくれました。このとき、私は笑顔は「世界共通の言葉」だと思いました。

シドニーに着いて2日目、語学研修施設の入校日がやってきました。ヨーロッパ、アジア、南米などから来た約50名くらいが同じ日に入校しました。その日、一人1分ずつくらいで自己紹介をする場が設けられましたが、皆が英語で自己紹介をしている中、私はあえて大声で日本語で自己紹介をしました。なぜそうしたかという第一印象が大切だと思ったからです。私はこのおかげで、皆にインパクトを与えることができ、外国人の友人が多くできました。

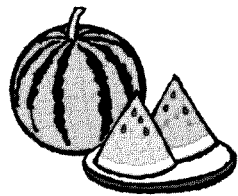
私が行ったのは3月でしたが、シドニーは夏でベストシーズンでした。私は授業が終わるとすぐに家には帰らず、毎日友人とオペラハウス、ビーチ、パーヘと出かけました。これも語学研修では最も重要なことのひとつだと私は思います。語学研修では語学力の修得にも、国際交流をするのにも、とにかく友人を多く作って、毎日皆で遊ぶということが大切だと思います。これは国際交流はもちろん、皆で遊ぶときは共通語が英語なので、語学力の修得にも自然とつながります。

私がシドニーに行っている頃、ちょうどイラク戦争が勃発しました。そこでシドニーにできた世界中の友人と反戦デモに参加しました。私はシドニーで多くの外国の友人ができましたが、皮肉にも戦争は起きてしまいました。この語学研修では、語学力の修得や国際交流、さらには世界平和についても考えることができました。

最後に、帰国してからのことですが、語学研修とは帰国してからの行動もこの経験を活かすかどうかに関わってくると思います。私は今でもメールでのやりとりや、韓国の友人とは再会しました。私は、この1か月間、人生の中で本当に素晴らしい時間を過ごすことができました。ぜひ、みなさんも参加してみたいかがですか？ No challenge, No success! (挑戦なくして成功なし!)



シドニー語学研修のメンバー



「4年生から後輩へ」

社会建設工学コース

垣原 朋幸（4年）

私が、広島工業大学に入学してはや4年が過ぎようとしています。入学したときは、4年というのがこれほどあっという間に過ぎていくとは思いませんでした。入学したてのころは、大学というところがどういところかまったくわからず戸惑いました。高校とは違いいろいろなことを自分でこなしていかなければなりません。

4年間振り返ればいろいろなことがありました。設計製図で製図の基礎を学んだことや、測量実習でトラバース測量をしたこと、建設工学実験では毎週実験を行い実験結果をレポートにまとめたこと、卒業研究では実験に数ヶ月没頭したことなど大変だった時期もありましたが、大学生活が終わろうとしている今となっては大変貴重な思い出です。大学がどんなところかという遊び場と思えばいくらでも遊べるし勉強しようと思えばいくらでも勉強できる場所だと思います。ある程度の目標地点をまず見つけることが大学生活をうまく過ごすコツだと思います。例えば、私の目標地点は、悔いの残らない就職活動でした。私なりの考えで就職活動をするうえで一番大切なことは早くから活動していくことだと思い、早めにSP1の練習に力を入れました。そして頻繁にゼミの先生に相談して試験を受ける企業を絞り就職活動に備えました。今思えばゼミの先生には大変お世話になりました。

私の好きな言葉に「人生にリハーサルは無い、チャレンジこそ青春だ」という言葉があります。これは私が高校のときに先輩に教えられました。まさにその通りだと思い、何事にも積極的に取り組みました。後輩のみなさんも、自分のやりたいこと、今できることを見つけてチャレンジして充実した大学生活を過ごしてください。



「4年生から後輩へ」

建築工学コース

平田 光史（4年）

時が経つのは早いもので、私がこの大学に入学してからもう4年が過ぎ去ろうとしています。この4年間を振り返ってみると、楽しかったことや苦しかったことなど、色々な事が思い出されます。

私は、工業高校の建築科を卒業し、もっと建築について深く学びたいと思い工大への入学を決めました。大学で専門の勉強をする上でも、高校で培った建築の知識が大分活かされました。

自分が大学での勉強を通じて大切だと思ったことは、自らが積極的に学ぼうとすることです。自分に与えられたことだけをこなすのではなく、自らがもっと建築に興味を持って勉強することが大事だと思います。高校の時は、自分が分からない問題があれば、すぐに人に聞いていました。しかし、大学では積極的に学ぶことを意識し、分からない問題があったらすぐに人に聞くのではなく、まず自分で図書館に行って調べることを心掛けました。そうすることで理解も深まり、自分で問題点を解決しようとする力が身につきました。自らが積極的に取り組み、物事を解決することは、4年時の卒業研究において特に重要だったことは間違いありません。

大学では、勉強だけでなく色々な課外活動も経験しました。広土会の役員として、3年時には工大祭の準備を手伝いました。みんなで学科展に出展する物を作ったことも今では良い思い出です。

また、クラス委員を1年生の時から任せられ、3年時には就職に関するクラス行事の司会進行を務めました。なかなかこのようなことは経験できることではないので、本当に良い経験をさせてもらいました。

私の場合は、このような機会に恵まれましたが、みなさんは大学で色々なことに積極的に挑戦してみてください。その経験が、自分にとってプラスとなり、財産となることと思います。そして、その後の人生において必ず活かされることでしょう。

最後になりましたが、後輩のみなさん、大学生活を満足できるものにするように是非最後まで頑張ってください。

1509001
品証登録

「美しい環境の中で豊かな生活」



東興建設株式会社

本社：〒105-0004 東京都港区新橋5丁目8番9号 東興ビル
TEL 03-5733-2010 FAX 03-5733-2011
広島支店：〒733-0035 広島市西区南観音1丁目13番5号
TEL 082-292-8110 FAX 082-292-9335

支店：札幌・盛岡・仙台・東京・東京7丁目・東京土木・名古屋・北陸・大阪・西宮・九州・南九州
工場：広島工場

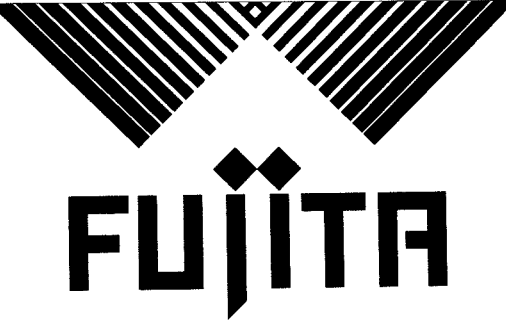
明 る く 伸 び る



株式会社 伏光組

代表取締役 伏見 幸彦

広島市南区出島1丁目33-61 電話代253-6161
FAX代254-4581
(支店) 松江 (営業所) 三次・東広島・世羅



FUJITA

「高環境づくり」フジタ



就職活動について

社会建設工学コース

坂本 良太（4年）

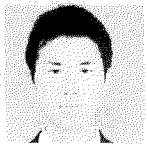
就職活動を始めたのは3年の1月ごろで自分はどんな仕事かしたいのか考えることから始めた。まず自分がしたい仕事はゼネコン、コンサル、公務員の大きく分けた3種類の業種のどれに当てはまるのかを考えた。自分は物を実際に自分の手で施工管理し、作りたかったのでゼネコンを選んだ。次に就職地域は狭く考えると会社の数が限られ選択幅が大きくせばまるので特に実家に帰らなければならない理由もなかったので全国から会社を探すことにした。最初どんな会社が良い会社なのか、またどんな会社が良くない会社なのかは全然わからなかったのでゼミの先生や、親、親戚、知り合いなどの実際に働いたりしている人に相談を持ちかけた。そこで、こんな会社がよいだと実際にこの会社がいいなどと会社名を聞いたりして自分なりに会社を調べたりし、最終的に4社ぐらいまで絞った。その会社には、積極的に電話したり、手紙を送ったりして連絡を取り、資料請求したり、会社説明会や会社訪問を行い、詳しく会社をしり、一番興味を持つことができた、大鉄工業に決めた。当社に興味を持った理由は、JF西日本グループの会社であり、ほかではなかなか手がけることができない鉄道関係の仕事や、大きな仕事を手がけることができることであった。この会社については、叔父からもよい会社だと聞いていたことも大きなきめてになった。

次に就職活動の中で一番苦労したエントリーシートを書き始めた。自分の長所、短所、自己アピールを書くのは思ったよりも難しく、何度も何度も書き直した。また志望動機もなかなかまとまらず、自分が何がしたいのか、自分になにができるのかうまく表現できなかった。

勉強を始めたのも、就職活動を始めたのとほぼ同時期で、まずSPI1の問題集を購入し3回ぐらい繰り返し行った。専門系の問題については最初一冊問題集を購入し、一通り問題を解き、わからなかったところを教科書などで調べたりした。しかし、範囲がないのであまりにも覚えることが多かったので要点を覚えたりすることにし、広く浅くという勉強方法に変えた。

就職試験は5月の初旬に本社でありました。午前中に会社説明会があり、午後から専門試験、適性検査があった。専門試験は、建設用語がほとんどで、あとは水準測量、単純桁の反力の計算などであまり難しいとは思わなかった。適性検査は、簡単な計算をどれだけ正確に限られた時間の中解けるか、簡単な英語のヒアリング、国語の文章読解などであり、対策していたものとはまったく違いあせったが、本当に簡単な問題であったので解くことができた。

面接は、試験の日から3日後に再度本社にて行われた。面接内容は志望動機をまず聞かれ、それに対しての質問等があった後、エントリーシートについての質問が主であり、特別な質問は聞かれなかった。面接の対策は、志望動機だけをしっかりと考え、ほかはあまり考えないようにし、考えすぎて唐突な質問があったときに頭が真っ白になり、失敗しないようにした。



就職活動について

建築工学コース

東 陽一（4年）

私は就職活動をするにあたって、3つ苦労したことがありました。1つはSPI、2つは履歴書、3つは面接でした。

1つ目のSPIは、私が受けた会社の1次試験でした。試験を受ける1ヶ月前まで、私はSPIの重要性を知らず、それまでの模試試験では点数は3割しかありませんでした。就職担当の先生には、「そんな点では推薦は出せんぞ!」、「今すぐ勉強してこい!」と喝を入れられ、部屋をすぐに追い出されました。今思えば、この出来事が私の就職活動に火をつけたような気がします。合格ラインは6割ですが、私は10割を目指し、1日に最低5時間は勉強しました。そして、本番には自信を持って試験を受けることができました。2つ目の履歴書は、1次試験前の書類選考でした。履歴書で一番大変だったのは、会社の志望理由でした。

ライバルが大勢いる中、自分だけの志望理由にするため、私はこのような流れで書きました。「私は、幼い頃から御社が建設した建物を見てきた。あのようなスケールの大きい建物を建設できるのは御社だけである。あの建物は自分がつくったのだよ!と、将来子供に言えるような建物を建設するのが私の夢である。」

私が会社を知っている接点を具体的に書くことによって、他の人には無いインパクトのある志望理由になったと思っています。

学生生活を書く欄では、私は、高校までは野球一筋をアピールし、大学からは高校まで、おそろかにしていた勉強を必死に頑張ったことを書きました。自分だけの履歴書を書くことは非常に難しいことだと実感しました。

3つ目の面接は、2次試験の支店面接、3次試験の本社面接に必要でした。面接対策として、参考書を買ひ、どんな質問にも答えられるような解答用紙を作りました。しかし、面接では、予想外の質問に対しての対応も必要であると思います。そして、面接で一番重要なのは、面接官と会話をするという事だと私は感じました。

以上が、就職活動で苦労したことですが、このように、ポイントを抑えて勉強ができたのは就職部にある、資料のおかげであると思います。資料には、今まで会社を受けた先輩達のアドバイスが書いてあり、試験対策が非常に練りやすく大変助かりました。また、内定を貰うことができたのは、ご指導を頂いた先生方を始めとし、就職部の方、先輩、友人、両親、その他皆さんのおかげだと思っています。感謝の気持ちを忘れず、新たに社会人としてこれから頑張っていきたいと思っています。

支 部 だ よ り

広土会関東支部総会について



関東支部長

梶野 良夫（2期生）

全国の広土会会員の皆様日々健勝のことと察します。さて、国内の景気については株価のわずかながらの上昇気配が示すように、底を脱して元気が出ることを期待したいものです。

表記の支部総会は平成15年11月8日(出)に、恒例の東京ガーデンパレスにおいて、広土会会長である島教授をお招きして会員12名出席のもと開催されました。島教授からは、大学受験対象者の減少による競争率の低下に伴う学力不足についての話がありました。

その後、近況報告等の情報交換をしました。各職場においても、初期の卒業生は特に経費節減、リストラ、転職が現実となる方も多くあり、身近なものとして感じました。又、今回出席者が少なく、日程及びPRの検討が必要と感じました。とりあえず、今回は平成16年10月3日(日)に同じ会場と決め、PRに努めたいと思います。

最近、全国の工業団地、住宅団地、ダム、高速道路建設等採算性に対する報道が大々的になされ、そのあり方が問われており、廃止や縮小化する見直しがなされております。若い土木建築関係の技術者においては、将来に對し大いなる不安を感じていることと思いますが、我々の生活基盤整備は何時でも必要不可欠です。要は必要性の問題ですから、何がこれからの世の中が何を要求するかを掴むかが大切です。これを何とか追求してください。



関東支部総会(平成15年11月8日)



広島支部活動報告

広島支部長

河原不二夫（3期生）

早いもので、広島支部長という大役をおおせつかって2年目を迎えようとしています。この間、支部長らしい仕事はしておりませんが、何とか支部として活動できたのも、支部の役員・幹事の皆さんの協力のおかげだと感謝しております。この場を借りて、厚くお礼申し上げます。

さて、今年度の広島支部の大きな行事として、広島西支部と合同で、広土会創立35周年記念事業を開催しました。開催準備にほぼ1年を要し、広島支部役員、広島西支部役員、実行委員会幹事の人たちの努力により、平成15年7月12日(土)、記念事業は盛況のうちに終了しました。以下に開催にいたるまでの経緯を報告します。

平成14年度広土会総会・第11回支部長会議
平成14年8月3日(土)

ひろしま国際ホテル 15:30～

・広島支部長として35周年記念事業の開催を宣言

第1回準備委員会

平成14年11月7日(木)

八丁堀シャンテ 18:30～ 参加者29名

・開催日、開催規模の決定

・開催内容の検討

第2回準備委員会

平成15年2月28日(金)

広工大広島校舎 18:30～ 参加者25名

・記念講演会の講師を櫻井学長に依頼

・実行委員会の組織編成

・参加費の設定

第3回準備委員会

平成15年5月13日(火)

RCC文化センター 18:30～ 参加者43名

・実行予算(案)承認

・趣意書の検討

・各期の幹事にチケットを配布

第4回準備委員会

平成15年6月19日(木)

RCC文化センター 18:30～ 参加者35名

・来賓の決定

・当日の役割及びスケジュールの検討

・チケット販売状況の確認

第5回準備委員会

平成15年7月3日(土)

RCC文化センター 18:30～ 参加者30名

・チケット販売状況の最終確認

・当日の役割及びスケジュールの最終確認

広土会創立35周年記念講演会・祝賀懇親会

平成15年7月12日(土)

リーガロイヤルホテル広島

・15:00～17:00 第12回広土会支部長会議

・17:15～18:15 記念講演会

・18:30～20:30 祝賀懇親会

記念事業報告会

平成15年8月1日(金)

広島全日空ホテル 18:30～ 参加者29名

・記念事業収支報告及び承認

・創立40周年記念事業に向けて新たな団結と誓ひ

以上のとおり、多くの人の時間と協力を仰ぎ、開催することができました。

また、当日400名を越える会員の出席をいただくことができたことは、「ここに広土会あり」との実績を示すことができ、大成功だと思っています。

これからも、会員相互の親睦や情報交換を一層深め、次のステップである広土会40周年に向けて、一生懸命取り組みたいと思います。

皆様のご協力をお願いいたします。

建設関連コンサルタント

測量・設計・土質・調査・試験・計測及び管理

ISO認証取得の支援コンサルティング

明伸建設コンサルタント(株)

代表取締役社長 灘 佳 生

広島市西区観音本町 備北出張所

1丁目4-12 庄原市本町 2188-1

TEL (082) 291-3141 TEL 08247 (2) 7584



松本建設株式会社

代表取締役社長 山 口 恒 博

本 店：〒730-0844 広島市中区舟入幸町3番3号

TEL (082) 232-8181 FAX (082) 233-8822

支 店：東京 営業所：呉・下関 出張所：岩国・東広島



ミサワ環境技術株式会社

代表取締役 洲 澤 昭 己

〒729-6202 三次市向江田町4252番地の2

TEL 0824-66-2281 (代)

FAX 0824-66-2975

http://www.ecomisawa.com

(営業所) 広島光町・鳥取米子・福井・福島



阿讃支部報告

阿讃支部

仁木 勉（2期生）

■親睦会

昨年の9月末に土木学会全国大会が徳島県で開催されました。

全国から約6000名の方々が出席を致しました、広島工業大学から中山隆弘教授、伊藤秀敏助教授、大東延幸講師、大学院生が学会会議に出席されました。卒業生としては良い機会でございますので、大学の近況などを聞きたいと思い、親睦会を開催致しました。県内の土木卒業生に声をかけた所、二つ返事で賛同をえて、出席をして頂きました。又県外からは、阿讃支部の土木第1回卒業生・香川県サンポート高松推進事務所所長松山憲一氏、土木第2回卒業生・東洋建設㈱高松支店長黒川哲氏両名が出席し、久しぶりに広工大の近況、入学の状況、就職状況等を聞きました。また大学院生の若い方々から研究生活、将来の進路目標等聞きました。先生方には土木学会の大変お忙しい中、参加をしていただき、本当にありがとうございました。特に伊藤助教授とは同級生でもあり、学生時代にタイムスリップし、話が弾みました。先生方からは少子化による学生の獲得、卒業生の就職先等、孤軍奮闘されている事が良くわかりました。大学院生からは若者らしく、自分の考えをしっかりとして持ち、はつらつとしており、我が大学も立派になったと実感いたしました。今後とも広工大発展のため、頑張っと思っています。我々も社会人の先輩として、いろいろと意見交換を行い、本当に良かったと思っています。数時間でありましたが楽しい時間を持つことができました。

■大学時代の思い出

今年の4月で私も57才を迎えます。大学を卒業してから35年。あと4年で県庁生活も終わりです。本当に時間の過ぎるのが早いこと。この親睦会を機に学生時代を思い出してみたいと思います。昭和41年入学。入学当所大学のお世話で草津町の薄暗い6畳一間に下宿。確か近くにお寺があり、釣り鐘音が聞こえていました。入学式には現在90歳の母が出席し、草津町の下宿先で徳島へ帰っていった光景が今でも頭の中に残っています。数ヶ月もすると友達も出来、一人暮らしの下宿生活にも慣れ、その後大学に近い五日市町に転居し、最後に大学近くの三宅にたどり着き卒業まで住んでいました。

目を閉じると思い出される情景は、校舎への長い登り坂、校舎と校舎をつなぐ橋、建設途上の校舎等です。又この大学4年間で世話になった先生方、下宿屋のおばさん、アルバイト先の方々、様々の方々とお付き合いで、社会人になるための人間形成が出来上がったのでは無いかと、感謝しております。下宿先のおばさんには随分とお世話になりました。例えば食事のおかずで、私には好き嫌いがあり、嫌いなおかずが出ると、私だけに違ったおかずを造っていただきました。今そのおばさんは、元気にしているかな。卒業式には今は亡き父が出席し、徳島への帰る途中、尾道から瀬戸田耕三寺を旅行したことが、一生忘れることが出来ない良い思い出として残っています。

■私の近況

徳島県・県土整備部・道路保全課に昨年の4月から勤務しております。仕事は来るべき東南海・南海地震が30年後に40%の確率で起こる。と想定されています。その為、緊急輸送路の確保をする必要があり、橋梁の耐震補強、防災対策等をやっています。県民の皆さんが安心して暮らせる「安心・安全徳島」実現の為、整備を進めております。その他歩道の整備、交差点改良、側溝整備、舗装、又台風時の通行規制、冬の雪対策など道路の維持管理等に努めています。地元密着の行政をやっており、大事な仕事をしていると自負いたしております。特に危機管理意識が必要であると痛感しております。

国の三位一体で自主財源も少なくなり、新しく物を造る時代はもう終わりです。これからは更新時代の始まりであり、予算的制約の中でいつ、どのような対策をどこに、行うのが最適であるかを考慮して、構造物を計画的かつ効率的に管理し、構造物の寿命を延ばすことが大事であり今後益々維持管理の重要性が増してくるものと思われます。

■最後に

仕事の関係上、先輩・後輩の方とお会いすることがありますが、社会人として立派な方が多く、私自身うれしく思

います。卒業してから今日まで大学を訪れたことがなく、環境もずいぶん変わっていると思います。この目でしっかりと我が母校の発展を見たいと思っています。

最後になりましたが広島工業大学のますますのご隆盛と先生方・卒業生のご活躍をお祈りいたしまして、筆を納めることとします。徳島へ来県の折には、ぜひお立ち寄りください。



広土会会員の近況

広島県東部支部

小田 和穂（14期生）

まずもって、先生方及び広土会関係者・会員の皆様方の日々でのご活躍を含め、益々ご健勝のことと存じます。

現在の私の状況としまして、土木建設業（創業46年）の義父の後を譲り受け経営者として日々頑張っています。

私共も時の過ぎるのが早いもので、卒業して22年が過ぎました。

時の過ぎ行く早さ以上に多角面産業の進歩が著しい中、建設業界も真の新しい時代（新規一転巻き返し）の到来と言った現在です。

例を挙げてみますと、現場での写真管理をたとえにあげてみます。

現場での初めて撮った写真は白黒写真で、2年するとカラー写真。今ではデジカメでパソコンを通じて現場写真の管理をする様な、当時からすると思ってもみななかった時代の進歩の中で毎日悪戦苦闘しながら時代人流れについていこうと努力しています。

まだ、経済の景気低迷からの大きな波が押し迫っているのも現状です。

官公庁の発注の削減見直し及び民間工事の低減化と共に設計価格及び労務・材料単価の低価格設定により、企業としてもとるべき手段を強いられてきます。その為には一番に経費の削減が考えられます。いかに手間と経費をかけずに手直し・ダメ工事を少なくし出来栄の良い早い仕事を管理して行くのが今の私の管理して行く業務であり使命であります。

学生時代に学んだ知識と、今までに培ってきた経験とをこれからも日々の時間を有効にこなし、健康に注意しながらコツコツとこの厳しい時代を乗り切り皆様のご指導とご鞭撻を頂きながら頑張っていくと思っています。

今後の広土会の益々の発展と皆様方のご活躍をお祈りします。

卒業生だより



広土会創立35周年記念事業開催報告

創立35周年記念事業実行委員会

廣本 忠典（15期生）

1. 記念事業開催の趣旨

広土会は、昭和43年10月に結成され、現在、建設工学科内の本部をはじめ全国に11支部を置き、会員数も4000名を越える大きな組織に発展しております。会員は、全国はもとより世界各地において、建設業界をはじめ数多くの分野で指導的役割を果たし、社会・経済の発展に大きく寄与しているところです。

平成15年、広土会は創立35周年を迎えました。これまでの歴史を振り返り、会員の親睦を深め、今後の広土会とその会員がより一層社会に向けて飛躍し、21世紀の明るい未来を力強く歩いていくことを祈念して記念事業を開催いたしました。

2. 記念事業の内容

(1) 記念講演会

日時：平成15年7月12日(土)17:15~18:15

場所：リーガロイヤルホテル広島3F

演題：土木工学の新たな挑戦

講師：櫻井春輔氏(前広島工業大学学長)

聴講者：約160名

(2) 祝賀懇親会

日時：平成15年7月12日(土)18:30~20:30



場所：リーガロイヤルホテル広島4F

来賓：鶴衛理事長 櫻井春輔前学長

横山健次同窓会会長

参加者：約400名

3. 記念事業実行委員会

実行委員長：河原不二夫（3期）

副実行委員長：徳山 宏（2期） 宮田数行（4期）

井上秀昭（6期）

総務：三浦勝行（3期） 茅野典男（6期）

廣本忠典（15期）

会計：奥川 浩（3期） 行迫孝治（25期）

会計監査：大志茂孝（1期） 石井卓郎（2期）

幹事長：狭戸尾浩（2期）

副幹事長：石田洋一（4期） 長谷川和志（6期）

各期幹事

五弓 莞（2期） 尾山正継（2期）

出口俊実（4期） 神田孝文（5期）

寺本 章（5期） 永原和裕（5期）

川下澄夫（8期） 大利正生（8期）

大野平和（8期） 古田 潔（8期）

原田忠明（9期） 細川 進（9期）

三崎一美（10期） 亀迫裕保（11期）

砂川伸雄（11期） 竹村昌徳（12期）

熊谷孝司（13期） 山下重成（14期）

村中昭典（16期） 竹内秀一（16期）

舩繁昌志（17期） 中村 透（17期）

綾地清亨（18期） 松永 潤（18期）

杉山敏夫（19期） 石井直樹（20期）

広津元基（21期） 下前和寛（21期）

大前秀幸（22期） 石田秀文（23期）

松本太郎（24期） 牧野克真（26期）

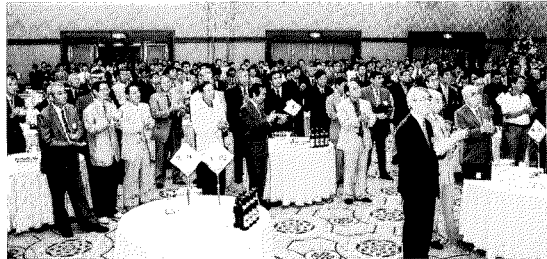
中冢大作（26期） 崎 将智（27期）

國本美枝子（27期） 濃岡裕樹（28期）

林 憲治（30期） 石原慎一郎（32期）

顧問：島 重章（広島工業大学）

景山敏則（1期） 竹内勝喜（1期）



4. これからの広土会

昭和63年9月に開催しました広土会創立20周年記念事業及び平成10年7月の広土会創立30周年記念事業に引き続き、今回、35周年記念事業を開催しました。これまでの記念事業は、広土会本部を主体として全国の会員を対象に開催しましたが、今回の35周年記念事業は、平成20年に迎える創立40周年記念事業までのつなぎとして、広島支部及び広島西支部が中心となって広島県内及びその周辺を対象に企画したものです。昨今の厳しい社会・経済情勢、特に会員の大部分が所属する建設産業を取り巻く環境は非常に厳しい中、それでも約400名の会員が集結し、記念事業は盛況のうちに終了いたしました。あらためて『広土会』のパワーを実感したところです。社会・経済の先行きはまだまだ不透明ですが、広土会は、建設産業の一端を担う集団として、技術向上のための情報を交換し、会員相互間で交流を深め、毎年新しい会員を迎えながら発展を続けていきます。われわれ広土会会員は、諸先輩方が培ってきた広土会の歴史に敬意をはらうとともに、さらなる飛躍に向けて若い力を加え、40周年、50周年へとつなげていきたいと考えています。

洋々と伸びのびと夢をかたちに――



洋伸建設株式会社

本社：広島市西区西観音町2番1号

TEL(082)292-8737(代)

建設コンサルタント（第5929号）

和幸土木設計株式会社

代表取締役

磯 亀 兼 吾

E-mail:isogame@wakonet.jp

本社：〒739-2106 広島市高屋町稲木2927-2

TEL(0824)39-0380 FAX(0824)39-0384

支社：〒730-0847 広島市中区舟入南2丁目5-11

TEL(082)295-2985 FAX(082)292-6451

本郷営業所：〒729-0415 豊田郡本郷町上北方

TEL(0848)86-4586

環境と人との和の創造

HARMONY WITH NATURE



株式会社 和田組

一級建築士事務所

代表取締役 和田 一 雄

〒739-1804 広島県高田郡高宮町房後125-20

TEL:0826-57-1314 FAX:0826-57-0400

E-mail:wadagumi@fine.ocn.ne.jp

営業所／広島市・甲田町



QM7512

島根支部の近況報告

【平常時は水をためない益田ダム】

見学と支部総会（H15.11.7）

復建調査設計株松江支社

寺田 彰憲（2期生）

堤頂部から一気に河床部付近まで急斜面に設置された梯子を上り下りする。日頃の運動不足が祟って全員息が上がる。益田ダムはいま2006年春の完成を目指して工事は最盛期である。

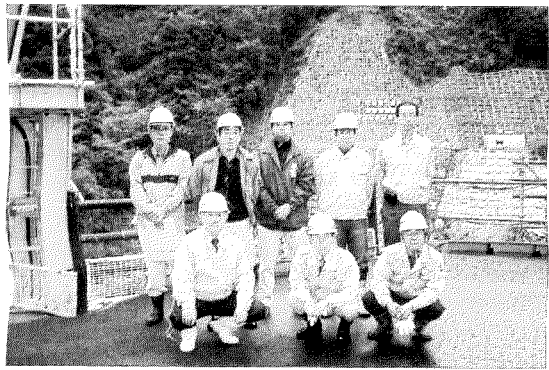
益田ダムは、昭和58年7月の豪雨災害などを教訓に事業が進められている。常用洪水吐を河床に設けて水をためないダム、魚も自由に行き来できるダムとして全国的にも珍しい構造となっている。常用洪水吐はオリフィスによる自然調節（H＝3.4m、B＝4.45m、2門）で、洪水流量を1,230m³/sから900m³/sに低減しする。

比較的基盤岩は良質で工事は順調に進んでおり、導流堤や本体の止水に特に配慮している。ただ、ダム建設技術はあらゆる最先端技術を駆使した総合技術であるが、日本国内のダム建設が少なくなっている現状を考えると、高度な技術力を継承していく場がなくなり、技術の空洞化が心配されるとのことであった。

その後、浜田市の「浜田ステーションホテル」において、島会長を迎え、第12回広土会島根支部総会及び親睦会を開催。

例年参加者が固定していく傾向があるが、個人的な提案としては、島根県は東西に広いので東西にそれぞれ青年部会を作り、運営や企画を一新し、20才代・30才代の参加を進める必要があるのではないかなと思う。我こそは青年部会をという方はぜひぜひ世話役の内田氏（0852-31-1424 徳畑建設 内）まで連絡をお願いします。

ともあれ、総会・親睦会は和気あいあいと進み、ひと時、学生時代に帰る。島研究室は、リモートセンシングによる地盤データーベースの構築、自然災害の予測・分析に力を注いでおられ、我々が学生の頃とは異なり「スマート」な研究室に変身しているらしい？



島根支部益田ダム見学会

技術士資格取得講習会

広島市環境局施設部工務課

札埜 克尚（8期生）

平成13年度から広土会で開催しています講習会も3年目を終え、その間、9名が二次試験に合格致しました。また、平成15年度は制度改正により、一次試験合格者でなければ二次試験を受験出来なくなったことから一次試験に対応した講習会を実施してきました。

例年、一次試験は合格率が低く難関と言われていますが、これは適切な受験準備をせずに試験に臨むことに起因しています。このことから本講習会では技術士試験の概要や受験資格の解説からはじめ、10月の試験日を目指し月1回の講習会日程による試験勉強の進行管理を適切に実施することによって、参加者が効率よく受験対策ができることを目標におこなって参りました。

一次試験は「適正科目」「専門科目」そして「基礎科目」から構成されています。但し学部生の場合は「共通科目」の受験も必要となります。

「適正科目」は技術者倫理や一般的な科学知識が問われるもので、普段から科学分野のニュースや論文を雑誌や学会の機関紙等で接しておくことが重要です。

「専門科目」は卒業生の場合、職場等で培われてきた知識で対応できることが多いのですが、学部生や院生は実際の経験がないことから応用的な問題への対応が難しいと考えられます。そこで、本研修会では土質やコンクリート等の各専門分野について、本学の先生及び長年実務に携わってきた技術士や卒業生に実践的な講義をしていただきました。

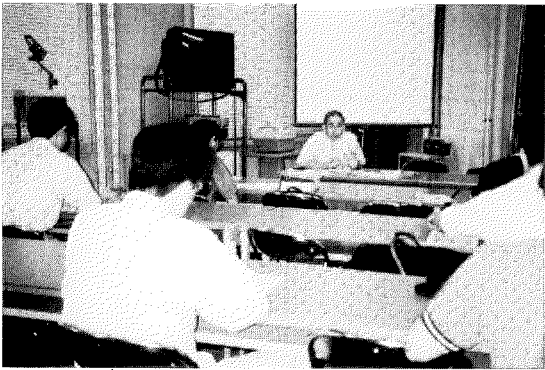
「基礎科目」は設計・計画、情報、解析、化学・バイオ及び技術関連についての知識が問われるものです。内容が最新の科学技術に関する広範囲な分野からの出題で、卒業生にとっては日ごろ接する機会のないものが多いことから、範囲を絞ったテキストを作成して効率的な対策をおこないました。

また、講習会では研修の最後に懇親会を行い、大学や参加者の近況とか職場のことや学生の就職の話など自由に話し合う場を設けており、これが勉強の励みになり、またや

る気ができます。

さて、その結果ですが、合格発表は1月30日でこの原稿の提出後ですが、去年11月の打上げ会で確認がとれた自己採点結果では非常に高い合格率であったことをお伝えしておきます。

平成16年度の講習会は二次試験と一次試験の両建てで実施していく計画です。また、技術士試験の概要や二次試験の受験願書作成における実務経歴についての講習を3月に行なう予定ですので参加希望者は下記に連絡をして下さい。



技術士講習会

技術士

1次試験合格者（H16.1.30発表）

・鈴木悠紀賞（M2）	・永田 拓也（M2）
・福田 浩一（M2）	・山崎 雅夫（M1）
・札埜 克尚（8期）	・後藤 敏紀（8期）
・宮本 憲三（8期）	・廣本 忠典（15期）
・山田 秀樹（16期）	・岩田 耕作（21期）
・安村 哲也（29期）	以上11名



技術士懇親会



技術士講習会に参加して

工学研究科土木工学専攻

山崎 雅夫（院1年）

皆さんもご存知のように技術士とは、「法定の登録を受け、技術士の名称を用いて、課科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項についての計画、研究、設計、分析、試験、評価又はこれらに関する指導の業務を行う者」です。技術士は、科学技術者科学技術の応用面に携わる技術者にとってもっとも権威のある資格です。しかし、これからの技術士の地位としては、従来の「高度な専門知識と経験からなる技術力を有している技術者であること」のステータス的資格から、「技術者として責任ある立場にたつために必要なベーシックな資格」に変わろうとしています。つまり、現在の「名誉職的資格」から「技術者にとっての必須資格」になっていくようにしているということです。現に、JABEEという機関で認定を受けた大学を卒業した学生は、技術士補の資格を得ることができるという方向に向かっているため、その変化はさらに進む一方です。こうした環境の中で技術者として今後生き残っていくために、もしくは学生が就職するために最低限の資格として、技術士という資格は必要不可欠なものであると思います。

私が技術士試験を受けるきっかけとなったのが、この技術士講習会でした。2年前の3年生も残りわずか、就職活動を始めようという時期でした。当時の院生の先輩方が技術士講習会の話をしている時にたまたま居合わせた私は、技術士講習会というものがあるから、参加してみないかと先輩に誘われました。もともと気になっていた資格であったので参加することにしました。この年の技術士講習会は、2次試験対策としての会でした。そこで、1次試験つまり技術士補試験の対策として、私たち学生のために特別に講義をしてもらうという形でした。講義は技術士1次試験を受けるにあたって、試験がどんなものであるか、試験に向けての勉強法とその心構えをするものでした。これは、試験を受けるにあたって非常に心強いものとなったのを覚えています。しかし、就職活動も始まり卒業研究と忙しくなっていく中で思うように勉強も進まず、試験を迎えることになりました。心構えはあったのですが、勉強不足だったのもあってこの年は不合格となりました。同時に就職活動をしていたわけですが、残念なことに私はこの年、就職す

ることができませんでした。自分の力の無さを痛感しました。そこで、もともと進学の意志もあった私は、自分の力の無さを補いより強くしようと進学を決意しました。

大学院へ進学し、技術士の勉強を始めていた私でしたが、今年も技術士講習会があるというのを聞き、再び参加することにしました。今年度は前回の2次試験を合格した人がおられて、今度は1次試験の合格を増やそうということで1次試験対策として講習会が行われました。4月から月に1度の割合で開かれ、先生や卒業生の方からの講義、院生が作った資料等によって学習したりするものでした。講習会の方針は、会に参加すれば受かるものではなく、この会を通して最後まであきらめずにみんなで協力していこうというものでした。私はこの講習会に毎回参加しながら勉強をしましたが、この方針の通りみんなで勉強するのはあきらめずに、最後までやり遂げるのが最善の方法だと感じました。月に1度ということもあり、次の講習会まで集中できるちょうどいい間隔だったと思います。そのため、試験まで息切れすることなく勉強することができました。本番をむかえ、それまで寝る間も惜しんで努力してきた成果を試験で出すことができたと思います。

技術士1次試験の結果の発表は1月30日でこの文章を書いている現在ではまだ結果はわかりませんが、合格しているように信じ、今後の勉学就職活動に励みたいと思います。また、技術士講習会はみんなで頑張っていくものだと参加していて感じたので、一人では勉強していくのは困難だという方や参加してみたいという方は、ぜひ参加してみてください。来年度は、この技術士講習会の学生幹事をさせていただくことになっていますので、講習会で見かけたら声をかけていただければ幸いです。



平成14年度建設コンサルタント懸賞論文最優秀論文
「建設コンサルタントとしての倫理とは」

フクヨエンジニアリング株 調査設計部 水工課
金原 智樹（26期生）

1. はじめに
社会資本整備に関わる我々技術者が、公衆の安全や健康な生活、また自然環境に対する重大な責務を果たすために、どのような考え方によって社会にアプローチすることが必要か、私見を述べる。

2. 建設コンサルタントに活躍の場はあるか
建設コンサルタントとは、複雑化、高度化する社会的なニーズに的確に応える専門家であると共に、その責任を果たせる技術者を育成する組織でもある。だからこそ、問題解決できる提案や提言を求められた我々は、そこに、専門家としての活躍の場を見出すことができる。

加えておくと、事業の直接的な発注者は行政であるが、真の発注者は国民であるということを忘れてはいけない。

3. 1人の技術者として根底に必要なものとは
地域住民の街づくりに対する関心は社会的に広がりつつあり、事業の進め方が変化してきている。このような社会情勢の中、活躍の場に立つ技術者が「仕事をする」ということは、その“責任を果たす”ということであろう。そのためには、自らの責務を自覚した倫理的な行動こそ、1人の技術者として根底に必要なものではないだろうか。

4. 技術者に必要な倫理とは
技術者がその責務を果たすための実践行動として、技術者の基となる「技術力」、それを基に最良の提案を行う「正直性」、自己利益のみを追求しない「自律心」、建設コンサルタントとしての「独自性」、専門の殻に閉じこもらない「開放」、について考えてみたい。

1) 技術力
蓄えた知識を知恵として活用し、それを応用して技術とする。これは技術者の核の部分である。その技術者の核の部分を成長させるために、様々な分野の変化に目を向けた技術的好奇心を持ちつづけたと思う。

2) 正直性
事業の各段階で検討した結果をどのように判断するかなど、技術者に委ねられている部分は多い。その要望に応える最善かつ最良の提案を行うために、客観的に判断する正直性を身につけたいと思う。その正直性を身に付けるためにできるだけ先入観を捨てたいと思う。

3) 自律心
技術者は依頼人の適正な利益を守る責任がある。と同時に、その関係者間において常に中立で独立した立場の調整役としての役割も担っている。よって、自己利益のための不当報酬を受け取らないなど、自らの行動を自らで律する自律心を持ち合わせられるように、常に自己批判を忘れないようにしたい。

4) 独自性
地域特性を反映させた街づくりに対する技術成果は、受注生産であり個別生産である。事業の推進には様々な専門家が参加するが、建設コンサルタント技術者にしか生み出すことのできない独自の提案があるはずである。その提案ができる独自性を生むために、誠意や互いの信頼感がにじみ出るような魅力ある人でありたいと思う。

5) 開放
これからの技術者は同業種の殻に閉じこもった「井の中の蛙」では、真のコンサルタントとして活躍はできない。我々が活躍の場に立つ技術者として認めてもらうにも、自らの仕事に誇りを持ち、堂々かつ謙虚に、様々な人々との交流の場に積極的に参加したいと思う。

5. おわりに

社会的に低迷する経済状況の中、建設業からの離職者が何万人とも言われるが、今の技術者に必要なものは“責務を果たす気概”ではないだろうか。その気概を持って仕事をする基本には、その責務を自覚した倫理観がとても大切だと思う。



5期卒業30年記念同期会開催の報告

復建調査設計株

岡崎 研児（5期生）

1. はじめに

昨年の10月25日(土)に、恩師の先生方5名のご臨席と、同期生47名の出席のもと、「卒業30年記念同期会」を開催しました。広土会の先輩方にならって、10年ごとに同期会を行っており、今回は3回目の開催です。当日ご出席の可否を問わず、多くの同期生のご協力で実現しました。実行委員会のご指名により、以下状況報告をさせていただきます。同期会は2部構成で、1部：特別講演(島先生)、2部：懇親会とし、「ホテルセンチュリー21広島」で実施しました。

2. 特別講演について

(1) 演題：「地盤が動く話」～地盤災害～

(2) 講師：広島工業大学建設工学科 島 重章 教授

(3) 講演概要：

次のような内容について、約45分間で講演を頂きました。

①地震災害について

大きな被害をもたらした最近の地震災害をパワーポイントを用いて、分かりやすい画像で説明されました。広島市内の液化化予測では、従来の方法(F_L値判定法)と、人工衛星画像処理(リモートセンシング)による液化化マップの比較など、最新の研究成果の説明もありました。

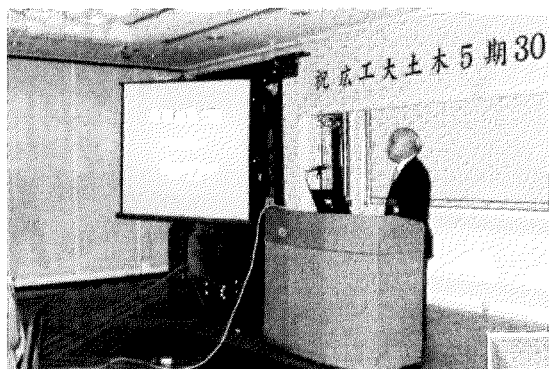
②法面崩壊・土石流災害について

法面崩壊については、「衛星リモートセンシングを利用した法面崩壊発生予測」として、屋代川の極楽寺地区で発生した土砂災害の説明がありました。広島県は土石流危険指定渓流数493箇所、全国(79318箇所)の約6.2%を占めています。また県別指定箇所数では全国No.1で、50ミリ以上の雨が降ればどこでも土石流が起こる可能性があり、災害予測の精度向上と公報の仕方、住民の防災意識の向上などの課題を、指摘されました。

③その他の災害について

雲仙普賢岳の火砕流による被害状況、現在の復旧状況について説明されました。

なお、島先生は長年のご研究が実り、平成12年7月、「衛星リモートセンシングによる風化花崗岩土地盤の風化度区分および崩壊危険度判定に関する研究」の論文名で、長崎大学大学院から工学博士を授与され、また平成15年10月1日付で教授にご就任されました。



3. 懇親会について

(1) 招待の先生方：鈴木先生、皆田先生、島先生、浅野仁司先輩(我々5期生が3・4年次に土質研究室助手)、(伊藤先生は学会と重なり、残念ながら出席されませんでした。)

(2) 同期生の出席者数：47名

(3) 概要：

寺本章実行委員長の挨拶に引き続き、来賓代表挨拶を皆田先生にお願いし、鈴木先生の乾杯の音頭で宴会をスタートしました。約2時間の宴会は、最後に児玉信二君のエールに合わせて、肩を組んで大団円を斉唱し、倉本文雄君の一本締めで終了しました。

あちこちのテーブルでは、白髪と髪の薄くなったかつての若者が、学生時代の昔話を花を咲かせ、あっという間の2時間が過ぎていきました。若く美しいコンパニオン6名に参加していただいたことも、雰囲気盛り上げるのに相当効果があったように思います。

4. 実行委員会について

実行委員会は、平成15年4月18日に第一回目をスタートさせ、概ね月1回のペースで、事後処理含めて都合8回開催しました。実行委員は次の方々が担当しました。遠隔地の地区幹事にはメール・郵便などで、会議結果などをお知らせしました。

(1) 実行委員(敬称は省略します。)

実行委員長：寺本章、実行副委員長：荒谷信男・倉本文雄、



幹事長(総務担当幹事兼務)：鍛冶中直樹、各担当幹事：総務：石浦邦昭、会計：岡崎研児・仁井田均則、

会計監査：坂本孝昭・平田照人、

地区担当幹事：広島地区：永原和弘・力萬繁範・植田秀雄・新開正博・中尾光法、

福山地区：児玉信二、広島県北地区：植田 誠、岡山地区：奥山 進・和田敬二、

山口地区：高山岳秀、島根地区：田辺安男、九州地区：田中丸晴男・外園善一・山下忠道、近畿地区：川上佳史・寺田克士、

関東地区：西尾修一

(2) 実行委員会の運営で留意した点、その他効率よく進めるために、次のようなことに配慮しました。

①会議終了後に次回会議日程を決めて、予定どおり実施し議事録を残す。

②当日の議事内容を事前に準備し、それに従って前回議事録の確認の後、予定の議事を進める。

③地区ごとに担当幹事をお願いし、該当地区在住の同期生に参加要請をしてもらう。

④会議不参加・遠隔地の地区幹事には議事録を送付し、当事者意識を維持してもらう。

⑤同期会終了後は、会計報告・集合写真・同期生住所録を不参加者含めて同期生全員に送付し、次回参加を要請した。

⑥日頃から連絡を取り合い、ゴルフコンペや飲み会等のミニ集会を定期・不定期に開き、コミュニケーションを維持している。

5. おわりに

今回は、8年後に「還暦祝い兼ねた同期会」を行う予定です。50歳の峠を越しても、建設分野の厳しい状況に直面し、なかなか余裕を感じる暇ありませんが、公私共に自分の責任で判断し、生活して行きたいと思っています。最後に、同期生並びに広土会会員の皆さんが、健康に十分留意され益々活躍されますことを祈念し、同期会開催のご報告といたします。ご臨席賜った先生方、ご協力いただいた同期生の皆様、有難うございました。平成22年には、元気で会いましょう。

広土会11期生平成15年度懇親会報告

基礎地盤コンサルタンツ株広島支店

砂川 伸雄(11期生)

1. 広土会11期生集いの現況

私たち広土会11期生は、昭和50年4月に入学した同期生です(卒業年次はばらつきますが?)。私たちは、以前から身近に居る仲間と声を掛け合っており、飲み会(納涼会や忘年会)を行っていました。平成13年よりちょっとグレードアップして、連絡体制を整備しつつあります。県外在住の仲間も多く、完璧な整備は不可能とも考えられますが、

2. 平成15年度懇親会(忘年会)の報告

私たちは、下記の内容で平成15年度懇親会(忘年会)を開催しました。

・日時：平成15年12月6日(土)18時～

・場所：“とと屋”広島市中区流川

・参加者：島教授+12名

この会は、7月12日の“広土会創立35周年記念事業”に参加した有志の発声により計画したものです。平成15年は、同期二名(大下英二氏、小井手健二氏)が他界されました。両氏のご冥福をお祈りするとともに、島先生の還暦および教授になられたお祝いを兼ねさせて頂いて計画したもので

す。

3. 今年は25周年記念の年(11期生)

私たちは、今年25周年の年に当たります。できれば記念行事が開催できないかと検討しています。大々的な行事は難しいと考えられ、無理をせずできる範囲での行事にしたいと考えています。

11期生の方々、25周年記念行事を計画した際は、一人でも多くの方の参加をお願いいたします。

4. 11期生へのお願い

冒頭にも記述したように、同期生の連絡体制の整備に苦慮しております。同期生の情報を何でもよろしいので下記まで、随時連絡ください幸いです。

○砂川 TEL082-238-7227(基礎地盤C) 携帯090-3376-0504

E-mail: sunakawa.nobuo@kiso.co.jp

○亀迫 TEL082-256-3357(中電技術C) PHS070-5825-1056

E-mail: kamesako@cecnnet.co.jp



第11期(島教授+12名)懇親会



3期生平成15年度懇親会 —島教授に乾杯—

中国電力株

中本 龍治(3期)

皆さんご承知のとおり島先生が、昨年十月一日付で教授に昇進されました。誠にめでたいことであるとともに我々にとりましても待望の日でもあります。あらためてお祝いを申し上げます。

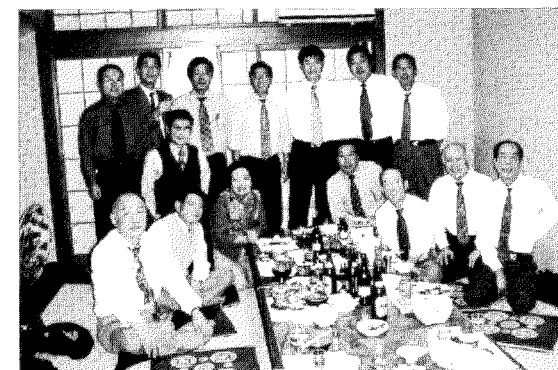
第3期卒業生で教授昇進祝いをするとの連絡が幹事方からありました。私は三年前から島根県鹿島町に単身赴任しており、金曜日の夕方からということで一瞬躊躇いもありましたが、休暇をとって出席することにしました。広島在住を主体に十四五名の参加でした。

島教授には、在学生は勿論のこと広土会会員のほとんどが何らかの形でお世話を受けているのではないかと思います。私自身も在学中は、講義、卒業研究、就職、更に現在でもことあることにご指導を戴いております。

開会挨拶で島教授は、広島工大に來られた経緯や研究・広土会活動等の状況紹介、更には今後定年まで従来にも増して講義、研究あるいは学生、社会のために貢献するとの力強い決意表明をされました。幹事方からの記念品(先生の飲しかったデジカメ)贈呈に続き賑やかな懇親会が始まりました。

挨拶では、研究成果等について詳しく述べられませんが、私は約三年前に島教授から工学博士の学位論文「衛星リモートセンシングによる風化花崗岩土地盤の風化度区分および崩壊危険度判定に関する研究」の贈呈を受け、拝見させて頂いております。この論文は、先生がこれまでに長年にわたるリモートセンシング技術の地盤工学への適用に関する研究の成果をとりまとめられ、長崎大学から工学博士の学位授与を受けられたものであります。

さて話は変わりますが、広土会会長の島教授に一つ提案したいと思います。近年、中国経済連、中国経済産業局及び広島大学が中心になって中国地域の産官学の推進活動が展開されており、大学等の技術シーズを活かした産業化に積極的に取り組まれています。こうした社会動向を踏まえ、広島工大建設工学科も産官学の連携を強化する必要があるのではないのでしょうか。例えば、建設工学科ホームページを利用した大学・広土会会員(産官多数います)の双方向情報交換等の活動から始めてみてはいかがでしょうか。こうした活動を研究してさらに広土会が発展することを願っています。



第3期の集い